

行雲流水

No.215 令和4年5月27日発行

「群れない自分」という存在

校長 寒河江 正人

たいていの人は、**仲間**がいると**安心**しがち。
孤立するよりは、**居心地**がいい。

てっとり早い仲間の作り方の一つは、**身近な人に合わせて仲良くすること**。
一番最初の仲間というものは、そうやってできていくのかもしれない。

しばらくつきあっていくと、**主張の強い人が周囲の取り巻きを吸収**してグループを作る。
吸収された人の中には、「**このグループにいれば安心だ**。」なんて考える人もいる。
「**信頼**」というよりは、お互いの「**利害**」でつながっているグループもあるかもしれない。

人間だれしも「**孤独に強い**」わけではないから、そういう「**群れ方**」を全否定はしない。
もしかしたら、そうせずには、**安心・安定**できにくい人もいるのかもしれないからだ。

ところで、生徒諸君。あなたの周囲を見まわしてみよう。
みんながみんな、一人残らず、例外なく「**群れている**」のかな？

よく観ていると、「**誰とも群れない**」「**静かにして群れない**」人だっている。
だからといって、周囲の人たちと無駄に敵対しようとしているわけではない。
「**群れるのは苦手だ**。」「**大勢でいるのは、居心地が良くない**。」「**一人で静かにしたい**。」
静かにものを考え、周囲との関係性をとらえ、**自分らしく生きよう**としているにすぎない。

一方、「**たいした考えもなく群れ、騒ぎたて、誹謗中傷する**」ことで、
一時的に「**誰かの味方**」になったり、「**誰かの敵**」になったりしている人は、いないかい？
もしもいたら、それは、まったくもって「**生産性のない無駄な行為**」で**恥ずべきこと**だ。

生徒諸君、君たちは「**人間として成長する上で大切な思春期の真っ只中**」にいる。
あなたは、誰の**味方**でも、**敵**でもない。「**ただの自分**」として、**そこに**いるのだ。
周囲とは、ただ「**対等・平等な一人の友人**」として、向き合えば、それでよい。
「**無駄に群れる**」必要はない。
そういう**自分の存在に気づき**、そういう**自分自身を育てる**ことが「**思春期の課題**」だ。